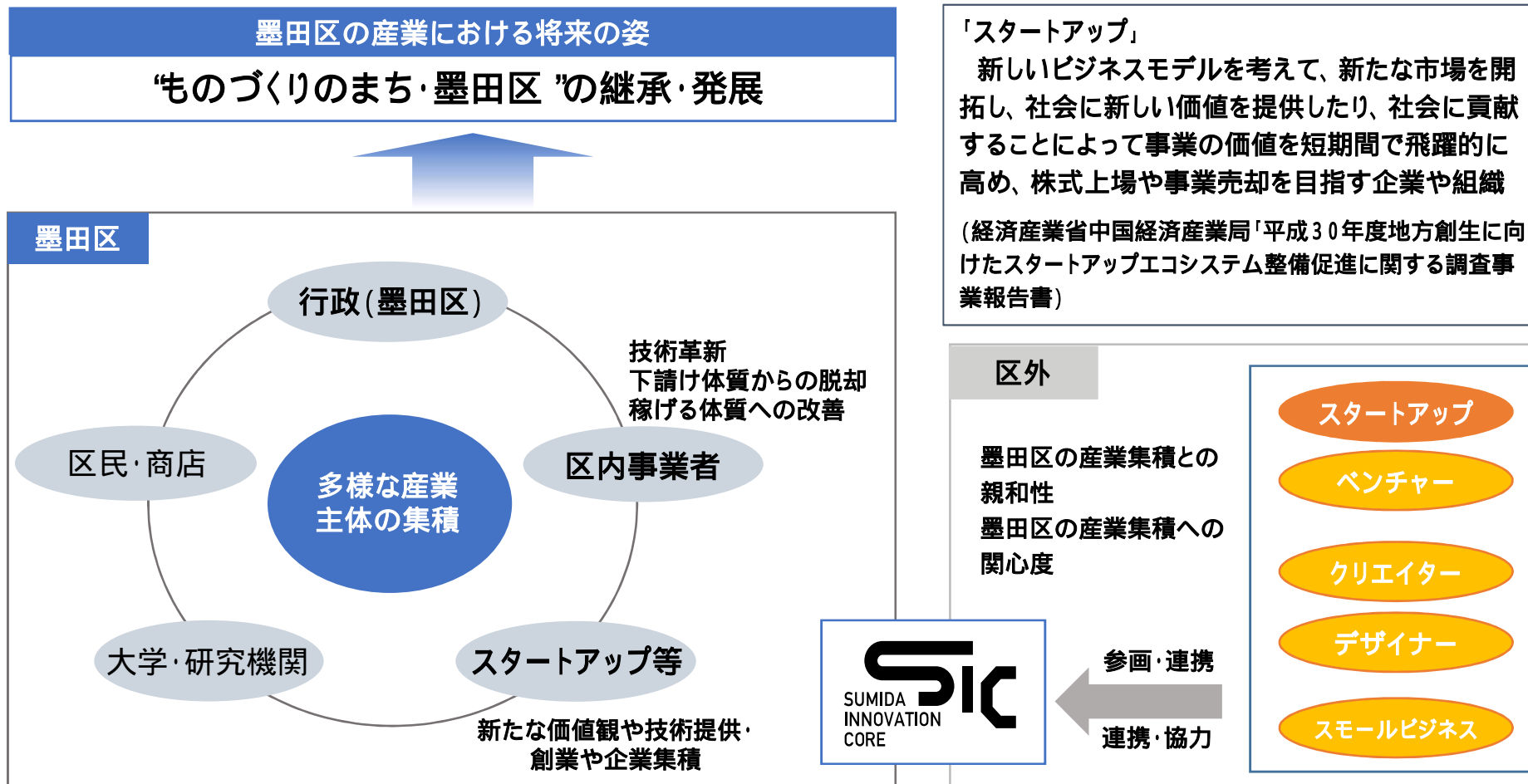


【テーマ】

産業集積のアップデートに資するための「SIC」の“ハブ”としての在り方について～SIC支援対象の面から～

- 現状、支援対象として明確化されているのはスタートアップ
- 墨田区の産業との親和性の高い共創のパートナー(SICを使ってもらいたい人)
- 墨田区の産業に関心の高い人たち(SICを使いたい人)
- 、 の観点から、SIC会員として支援していくのはどのような人たちが
- そうした人たちにとって魅力的な墨田区の企業及び産業の在り方(必要な変化)とは
- 区内企業、すみだの産業への影響と、産業集積のアップデートへの寄与を念頭に



「スタートアップ」

新しいビジネスモデルを考えて、新たな市場を開拓し、社会に新しい価値を提供したり、社会に貢献することによって事業の価値を短期間で飛躍的に高め、株式上場や事業売却を目指す企業や組織

(経済産業省中国経済産業局「平成30年度地方創生に向けたスタートアップエコシステム整備促進に関する調査事業報告書」)

令和5年度第1回産業振興会議 産業振興会議の在り方と産業集積のアップデート

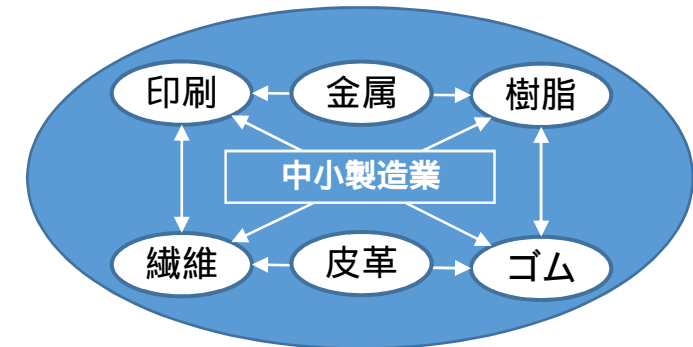
議論の前提

- なぜ、産業集積のアップデートが必要なのか
 - ▶ まちの活力を維持するためには産業集積が必要
 - ▶ ものづくりの再定義（解釈の拡大）が必要
- これからの産業集積維持にはコトづくり的な要素が重要
 - 新しい事業を興す 連携・誘致を進める 事業者の意識改革
 - ▶ 「ものづくりのまち」であることに対する地域内外の認識強化
 - 突出した成功事例創出と効果的発信（憧れや共感を生む）
 - ▶ 産業資源の観光面での活用促進

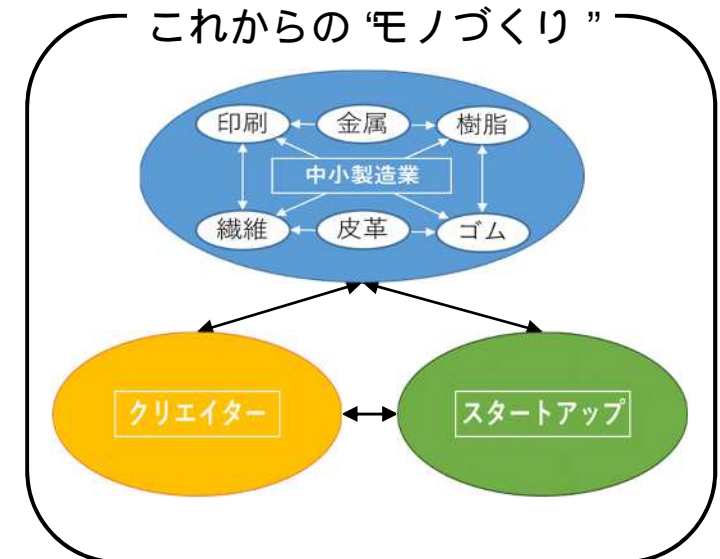
会議での主な意見

- **ものづくりを広い分野で捉えなおし、新しい価値を提供**
- **減らさないための取組と増やすための取組の両立が必要**
- 地域産業の活性化のためsu、クリエイターとの連携を進める
- 「ものづくりのまち」であることのPR、認知度向上（誰に？）
- **経営者の意識改革には「稼ぐ」ことが一番**

これまでの「ものづくり」



これからの「モノづくり」



令和5年度第2回産業振興会議 墨田区における産業観光の在り方

議論の前提

- 見せられる（資源）と見たい（ターゲット）は別
 - ▶ ものづくりのまちとして何を見てもらうのか
 - ▶ 観光の付加価値を高めるには、どの層をターゲットとするか
- 来てもらってお金を落としてもらうことが重要
- 地域の日常の観光資源化
 - ▶ リピーター・関係人口の獲得
- 新たなつながりの場の創出
 - ▶ 観光に関わる人への裨益

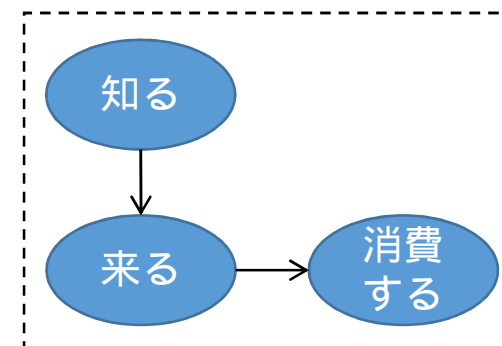
クラフトツーリズムについて

ものづくり産業「クラフト」と体験型観光「ツーリズム」の組み合わせ
当たり前のように存在する地域資源に磨きをかけ、そこでしかできない「体験」
モノの売買だけでは得られない付加価値を付ける



会議での主な意見

- B to Bで一般人を対象とした工場見学ツアーのメリットをどう見出すか
- 技術や製品について知ってもらっただけでなく、**お金を落としてもらうことが大切**
- 産業観光 = 工場見学という認識を改める必要がある
- ものづくりのまちを観光でPRするという話にはならない
- 産業観光の単価を上げるために**誰に何を**見せていくのかを考える必要がある
- 墨田区の観光コンテンツとしての**産業観光の位置づけを明確化**する必要がある

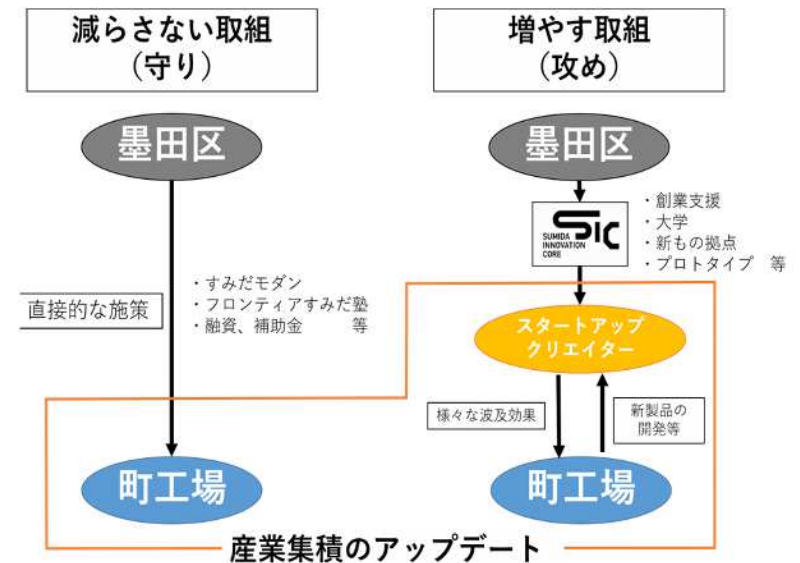


令和5年度第3回産業振興会議

産業集積のアップデートに資するための「SUMIDA INNOVATION CORE」の“ハブ”としての在り方について

議論の前提

- 産業集積のアップデートに向け、減らさない取組と増やす取組を両立
 - ▶ 減らさない取組 事業者に対する直接的支援
 - ▶ 増やす取組 スタートアップ支援を通じた間接支援（事業者の变革を促す）
- SICは、スタートアップ支援における観光案内所的な場
 - ▶ 区のスタートアップ支援に関わるあらゆる情報が手に入り、施策やステークホルダーにアプローチできる
- スタートアップと区内事業者との共創関係を創出する場
 - ▶ 区内事業者と“話”ができるスタートアップの育成、スタートアップをディレクションできる区内滋養者の育成



会議での主な意見

- ものづくりのまちの看板を下ろさないため、違う業態で既存の産業集積を補完する必要がある
- SICを訪れる様々な立場の人たちが**化学反応を起こす**ことがSICの目的
- 新ものづくり創出拠点との関係は、**競合ではなく補完**（SICは新ものを含む区の創業支援の象徴として全国に発信）
- **区の多様な産業に対応**するためにハードウェアスタートアップだけでなく、クリエイターも対象とすべき
- “墨田区ならでは”をスタートアップに感じてもらうために、ものづくりというコンテンツをどのように発信するかを考える必要がある
- **墨田区の本物の強みはものづくりではなく、プロトタイピング、クリエイティブ寄りの仕事**

令和5,6年度墨田区産業振興会議 構成案

【R5第1回】ゴールの共有 産業集積のアップデート

増やす取組（SICを核とした地域内外の連携によるイノベーション）

呼び込む

区外から多様なステークホルダーを呼び込む

繋げる

ステークホルダーと区内事業者との共創事例を創出する

変える

区内事業者の意識・体質を変える

【R5第2回】墨田区における産業観光の在り方

誰に何をさせるのか 外部資源獲得

【R5第3回】産業集積のアップデートに資するための「SUMIDA INNOVATION CORE」の“ハブ”としての在り方について

内外の資源の共創関係創出の場としてのSIC 区内事業者の変革

【R5第4回】産業集積のアップデートに資するためのSICのハブとしての在り方について

～SIC支援対象の面から～

区内産業との親和性・網羅性

【R6第1回】産業集積のアップデートに資するためのSICのハブとしての在り方について～SICと新ものづくり創出拠点の関係整理～

補完関係の在り方

【R6第2回】SICとテクネットすみだ（八広・東墨田エリアとの連携）

ものづくり面での連携・補完

【R6第3回】SICと大学・UDC（文花・立花エリアとの連携）

大学発SU支援の在り方、地域への波及

【R6第4回（まとめ）】HWS拠点構想と産業集積のアップデート

産業集積のアップデートの姿（ ） 産業集積のアップデート実現過程におけるHWS拠点構想の役割

（ ） ▶区の産業振興施策をハブとした、区内外の多様なステークホルダーとの共創 ▶社会や技術の変化に対応できる企業集積